

『アロマセラピー学雑誌』投稿の手引き

1. 投稿の準備

必ず投稿規程および本投稿の手引きの内容を確認のうえ、テンプレートを参照して執筆する。

2. 原稿の書き方

- 1 投稿原稿は、Word™などのワードプロセッサアプリケーションにて作成する。12ポイントの文字を使い、1行40字、1ページ21行（1ページ840字）で、左余白に行数、右下余白に頁数を記載し、横書きに印字する。
- 2 原稿は次の順で、ページを改めて作成する。表紙、英文要旨、和文要旨、本文。
- 3 句読点、カッコ、ハイフンなどは全角1字分を使い、数字および英字は半角文字とする。数字と単位の間は半角空けとする。
- 4 節の初めは1字分空ける。

3. 用語

- 1 用語は常用漢字、現代かなづかいとし、専門用語は文部省学術用語、JIS用語に、医学用語は日本医学会編「医学用語辞典」に、酵素名はInternational Union of Biochemistry and Molecular Biology (IUBMB) に、化合物名はInternational Union of Pure Applied Chemistry (IUPAC) に原則として従う。
- 2 薬品名は一般名とし、商品名を記載する際には一般名の後にカッコを付けて記載する。
- 3 酵素名、化合物名、薬品名を略記号や番号で表す場合は、本文の最初に出てくる箇所、正式名の後にカッコを付けて略記号または番号を記載する。
- 4 単位は、原則として国際単位系 (SI) を用いる。
- 5 有意確率を表す「*p*」値はイタリック体で表記する。
- 6 外国の人名、会社名などは外国つづりで記載することを原則とする。一般に日本語として通用しているものはカタカナで表記する。
- 7 精油の製造者や実験の機材などの会社名は、「株式会社」などの正式名称を用いる。
- 8 アロマセラピーに関する用語は、アロマセラピー検定公式テキスト1級・2級（公益社団法人日

本アロマ環境協会、2020) に準じる。例として、「アロマセラピー」ではなく、「アロマセラピー」とし、その意は「精油を用いた自然療法の総称」とする。「アロマオイル」ではなく、「精油」もしくは「エッセンシャルオイル」とする。植物の学名はイタリック体で表記する。マッサージは、トリートメント、または施術という用語に置き換える。ただし、該当する国家資格免許を有した者が行うマッサージのことを指すのであればマッサージという用語を使用してもよい。

4. 図、表、写真

- 1 図、表、写真は1ページにつき1枚ずつ記載し、合計10枚以内にまとめるようにする。
- 2 図、表、写真の題名・説明文は和文または英文（和訳を添付）とする。
- 3 図、写真の番号・題名・説明文はそれぞれの図、写真に記載するとともに、すべての図、写真の題名、説明文をFigure or Photo caption (s) として別紙にまとめて記載する。
- 4 表は英文の場合はTable 1…、和文の場合は表1…のように記載する。本文中で表を引用する場合も、それぞれの表記に従ってTable 1、表1のように記載する。
- 5 図は英文の場合はFig. 1…、和文の場合は図1…のように記載する。本文中で図を引用する場合も、それぞれの表記に従ってFig. 1、図1のように記載する。
- 6 写真は英文の場合はPhoto. 1…、和文の場合は写真1…のように記載する。本文中で写真を引用する場合も、それぞれの表記に従ってPhoto. 1、写真1のように記載する。

5. 表紙

- 1 次の事項を必ず記入する。
 1. 論文の種別
原著論文、総説、研究ノート、事例報告
 2. 論文題名
論文内容を明確に表現し、なおかつ長すぎず簡潔な題名とする。

大題名がある場合には題名に文献番号を付け、引用文献・注欄に記載する。

3. 著者名

著者連名の場合は、通信連絡に当たる著者名の右肩に*印を付ける。

4. 研究の行われた機関の公式名

異なる研究機関に属する著者がいるときは、所属先別に番号を付け、所属機関名を記載する。通信連絡に当たる著者の住所、電話番号、E-mailアドレスを記載する。

5. 図表、写真の枚数

挿入する図、表、写真がある場合はそれぞれの枚数を記載する。

6. 英文要旨

英文要旨は、その論文において著者が強調したい要点を含め、目的、方法、結果（重要な数値を入れる）を要約する。

1 要旨は次の順序で記載する。

- (1) 論文題名
- (2) 著者名
- (3) 研究の行われた研究機関名（公式英名）
- (4) 要旨本文
- (5) 大題名を特に必要とする場合はその題名
- (6) キーワード（3～5個）

2 要旨本文の長さは、原著論文、総説は 600 words 以内、研究ノート、事例報告は 100～200 words 程度とする。

7. 和文要旨

- 1 和文要旨は、その論文の主旨が把握できるように、目的、方法、結果を要約し記述する。
- 2 要旨の長さは、500 字以内とする。
- 3 キーワード（3～5 個）を付ける。

8. 本文

- 1 本文の項目は、投稿規程 3-1. 原著論文、3-2. 総説、3-3. 研究ノート、3-4. 事例報告に準ずる。
- ② 大見出しは、1. 緒言、2. 実験、…のように記載の上でセンタリングし、中見出しは、2.1、2.2、…、のようにし、小見出しは、2.1.1、2.1.2、…のようにして左から 1 字分空けて記載する。なお、小見出し以下の区分は (1)、(2)…を用いる。

[例]

2. 研究方法（センタリング）

- 2.1 被験者（左 1 字空け）
- 2.2 測定条件（左 1 字空け）
 - 2.2.1 アロマセラピー（左 1 字空け）
 - (1) 試料
 - (2) 試料の呈示
 - 2.2.2 脳波の測定（左 1 字空け）
 - 2.2.3 脳波の分析（左 1 字空け）
 - 2.2.4 質問調査表（左 1 字空け）

9. 引用文献・注

- 1 引用文献および本文中の注記は該当する箇所の右肩に 1) または 2)、3) または 4)～6) のように通し番号を付け、本文の最後にまとめて引用順に記載する。
- 2 同じ著者、同じ雑誌や同じ単行本などの巻・年・ページが異なる文献を引用する場合でも *ibid.*、*idem.*、「本誌」などの用語は用いない。
- 3 著者名は、漢字の場合は姓名を、欧文の場合は姓の次に名の頭文字を記す。複数の場合はすべての著者名を記入する。ただし、著者数が 5 名以上の場合には、筆頭から 4 名までを列記し、それ以後は「他」、「et al」とする。
- 4 文献名の略し方は、Chemical Abstracts、化学便覧などの略し方に準じる。
- 5 和文誌は当該誌で指定する略記法に従うものとし、特に指定のない場合は略記せずに正式名で記載する。
- 6 雑誌の場合、誌名はイタリック体、巻数はゴシック体とし、年号には（ ）を付ける。
- 7 単行本の場合、書名には“ ”を付ける。
- 8 著者自身の未印刷（投稿済み）の研究は好ましくないが、引用する場合は、「投稿中」と記し、著者名、投稿論文誌名を付記する。
- 9 電子ジャーナルの場合、著者名、雑誌名、巻（号）、頁、発行年（西暦）、アクセス年月日、URL のように記載する。
- 10 Web ページの引用は、電子媒体からの削除や URL の変更により参照できなくなる可能性があるため、可能な限り避けること。Web ページに代わる刊行物が存在せず、やむなく引用する場合は以下のように記載すること。発行機関名または著者名、年号、資料題名、アップデート

日, <URL>, アクセス日の順に記す。ただし, この中で不明な箇所は省略することができる。

[例] 引用文献

- 1) William S. C., Joseph C. S. : *Ann. NY Acad. Sci.*, 561, 29- 38 (1989).
- 2) 野田信三, 大徳絵里, 岡崎 渉 : アロマセラピー学雑誌, 4, 26-29 (2004) .
- 3) Sawamura M. (Ed.) : “Citrus Essential Oils. Flavor and Fragrance”, pp. 5-7, John Wiley & Sons, New Jersey (2010).
- 4) 鳥居鎮夫 : “香りの謎”, pp. 35-39, フレグランスジャーナル社, 東京(1994).
- 5) 公益社団法人日本アロマ環境協会(2014),アロマ研究室, 2014年9月10日,
<<http://www.aromakankyo.or.jp/basics/literature/>>,
2014年12月10日アクセス

(2000年6月27日 作成)

(2026年4月1日 最終改定)